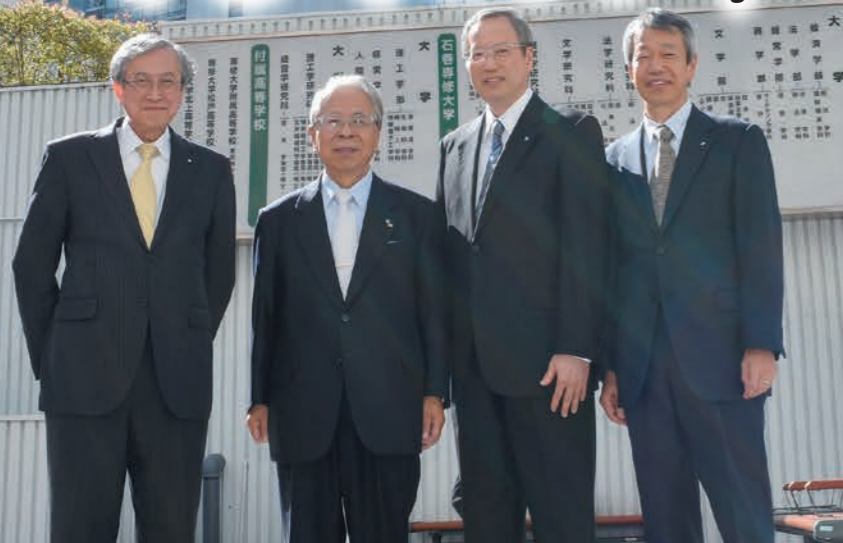


# 飛躍の2020年スタート。 この先10年を見据えるリーダー4人の視点

# 翔べ鳳！ 建学140年・ そして150年へ



最上階に交流ラウンジ「鳳サロン」が設置される建設中の神田新校舎「専修大学140年記念館」を背に

**日高義博**  
学校法人専修大学理事長

**佐々木重人**  
専修大学長

**尾池 守**  
石巻専修大学長

**小宮多喜次**  
専修大学校友会会長

本年、専修大学は創立140周年、石巻専修大学は昨年創立30周年を迎え、それぞれ次の節目である150年、40年を目指し、飛躍の第一歩を踏み出す一年になります。また、新学部設置やカフェの併設など、さまざまな期待にあふれる神田キャンパス・10号館も、いよいよ4月より運用。そんな2020年の幕開けに、今回は新春特別企画として、未来へ向けた大学構想とその実現への動き、また校友会として協力体制をどのように築きあげていくのか。余すところなく語っていただきました。

## 大学改革を実現し 150周年へと向かう

**編集部** ● みなさま、新年明けましておめでとうございます。まずは校友のみなさまに年頭のご挨拶を頂戴できればと思います。  
**日高理事長** ● 新年明けましておめでとうございます。本年は専修大学140周年となる重要な節目の年を迎えました。昨年は石巻専修大学が30周年を迎え、お祝いが続きます。大学改革を継承し、次の10年へ向かう重要なキックオフとなるこの1年、特に気を引き締めて、尽力していきたいと思えます。みなさま、ご協力のほど何卒よろしくお願いいたします。

**佐々木学長** ● 明けましておめでとうございます。本年は、神田新校舎、学部の改組、新学部の設置というこれまでの10年の歩みが結実する年となります。これが到達点ではなく、インフラストラクチャーの完成を見たことで、新たな出発点になります。そこにコンテンツ、ソフトを組み込み、魅力あふれる大学を目指すという決意を新たにしております。  
**尾池学長** ● 明けましておめでとうございます。石巻専修大学は昨年、無事に創立30周年を迎え、記念式典、および祝賀会等を滞りなく終え、一区切りといった心境でした。新たな年を迎え、今後の10年を見据えた改革として、中長期ビジョンの具体的な骨子

の立案はすでにスタートしています。令和3年4月を目指す新学科の設立、また理工学部、人間学部の改革を進めるなど、実りある一年にしたいという思いしております。みなさま、何卒よろしくお願いいたします。  
**小宮会長** ● 皆さん、新年おめでとうございます。今年は東京オリンピック・パラリンピックが開催され、明るく活力あふれる一年になることを期待しています。また、春には専修大学創立140周年記念事業が全て完了します。神田キャンパスを中心とした専修大学の更なる発展の年がスタートするのだと感じています。石巻専修大学も昨年30周年を迎え、一層の発展を期待したいと思えます。全校友のみなさん、引き続き一

致団結し、両大学への強力なご支援をお願いいたします。

## 新たな価値を創設し 大学の魅力を訴求する

**編集部** ● みなさん節目の年として重要になると実感していらっしゃると思いますが、専修大学150年、石巻専修大学40年へ向け、日高理事長、佐々木学長、尾池学長より大学構想をお聞かせください。

**日高理事長** ● これまで140周年に向けて、学部・学科改組、新学科設置と、専修大学の大学改革の基盤整備を行いました。いわば、教育体制の器づくりを行ったわけです。150年に向けて、その実質を求め、今後10年間で高みを目指し、躍進を目指すところです。これが最も重要であり、そのために有為な人材を育て、大学はステップアップをしていくことを目標としています。

構想としては、若い方の意見を吸収しながら目標、アドバランをつくらなければならない。その仕掛けをどうするか、ということを考えています。

**佐々木学長** ● 日高先生がおっしゃったように一連の改革の流れが、基盤づくりの完成を迎えます。そこへ新しい仕組みを取り込み、魅力の部分を外部にアピールし、大学としてブランド価値を高める努力が必要であると感じています。

生田キャンパスには経済、経営、文、人間科学、ネットワーク情報という学部のラインナップで、領域に応じて統計的な手法を使い、知見を発信するという、ビッグデータを活用できる状態にあります。「生田データサイエンス・ヒルズ」という言葉を使い、興味深いことをしているキャンパスとして学生、さらには社会全体に評価してもらうことを目指します。

神田キャンパスは新校舎も完成しつつあり、関係者、周辺の方々からも注目をいただいています。こちらら魂を入れていく作業が必要で、法、商、国際コミュニケーションという3学部が集まったことのシナジ

一効果を目に見える形で提示していくことを目指します。

その一つとして、難関試験の合格者を増やしていくことがあります。司法試験、公務員採用試験、公認会計士試験、税理士試験といった試験について、3学部が神田にある意義を証明していきたいと考えます。  
**尾池学長** ● 本年は東日本大震災から10年目に入り、復興期を乗り越え、復活、再生をしていく時期に入ったと定義しています。学生の数も増加傾向にあり、文科省から学科の改組、改革をしても良いという判断をいただける状況になりました。我々としては自分達が次に何をやりたいかを明確にし、高校生、保護者、あるいは地域に伝える必要性を感じています。

これからは地域と共生する学科に加え、日本全国あるいは世界に発信できる学科の

## 創立140周年までは大学改革の基礎整備。 150年に向け教育体制の質を高める

——日高理事長

併存が必要ではないかと。具体的には経営学部の新学科設置を考えています。データ、情報をマネジメントし、社会科学的、あるいは自然科学的な意味づけができる人を育てて輩出していけば、地域、国を問わず対応でき、社会に貢献できます。いずれはそれが評価され、ひいては石巻専修大学が魅



日高義博 学校法人専修大学理事長

力ある大学になると想定しています。

ほかにも理工学部の改革や、1年次はAIやIoTといった基礎を学び、2年次から学科も含めてコースを選ぶような体制づくりを計画中です。

## 「建学の精神」の活動で 地域との交流を密接に

**編集部** ● みなさん、様々な展望を描いていらっしゃいますね。ではそれに向け、今後10年間の方針、抱負についてもお聞かせ願えますか。

**日高理事長** ● 躍進するには、社会に出た時に活躍できる人材の確保が必要と考えています。志願者数は大学の心臓の鼓動だと、ずっと言ってきました。志願者が集まらないと大学経営はできないし、研究教育の基盤がなく、それが減っていくということは

徐脈を意味します。

幸いにして昨年度は目標の5万を超えて約5万9600人という志願者を集めました。今年はおそらく6万を超えるのではと思います。競争率だけ高くても意味がなく、伸びる人材を大学に入れ込んで、得意とするところを成長させる仕掛けをつくらなければならないと躍進はないでしょう。そのための入試のやり方をだいぶ変えてきました。何をやりたいかという目標を持った人達を確保するため、入り口を間違えてはいけない。だから入試が難しくなるのも善し悪しだと思うんです。そのあたりの仕掛けを真剣に考えなければいけないと実感しています。

もう一つ、国際交流については、130年の時に「黒潮ラインの国際交流」\*1について主張してきましたが、これはおおよそ出来上がってきました。アジア諸国の国造りにも貢献すべく、各国との国際交流が盛んになってきましたが、留学生の受け入れもさることながら、研究者をいかに育てて母



佐々木重人 専修大学長

国に帰すか、この橋渡しを目指し、人との連携の継続性を確立して、真の意味での国際交流を目指したいと考えています。

大学改革において、データサイエンスは避けて通れない問題ですが、それに加えて、社会に出てから有用な人材、社会構造を支える柔軟な人材を育てることは私学にしかできないと私は思うんです。社会状況がクルクル変わって、大学の存在意義も役割も変わっていきますけれども、私学は永久に変わらないというのは「建学の精神を背負う」というこの1点なんですよ。国公立にはないこの点を大学改革にジョイントさせて、教育、研究にバックアップする法人活動をやるべきと思っています。

**佐々木学長** ●生田キャンパスにはデータサイエンス系の研究者が多くいます。個人研究費、研究助成費という制度がありますが、大学からテーマを提案し、研究、プレスリリースを条件にした研究助成制度を新設しました。このような積極的な施策により生田キャンパスのブランド化を目指します。

神田キャンパスにおいては地域との共生を目指し「神田神保町カルチャータン」という名称で、新たな学生街をつくることを目標にしています。カルチャータンはご承知の通り、パリの学生街を象徴する言葉ですが、学生街らしい雰囲気と佇まい、それを楽しむ近隣の人たち、世界からやってくる旅行者や留学生が、この地域を楽しめる場所にする。そのための文化面の発信などにも新校舎は大いに貢献する舞台になるでしょう。

また、国連主導で2030年までの国際目標SDGs\*2が掲げられています。世界で大きなうねりとなっている運動ですが、何も特別なことをするのではなく、普段の営みの中で工夫したり、省エネをしたり、人を思いやって気を遣うといった行動をとることです。専修大学としては、今後10年の背

## インフラストラクチャーの完成により、ソフトを充実させ、さらに魅力ある大学へ

——佐々木学長

骨になるような目標の一つとして捉え、生田、神田両キャンパスの特徴に基づくSDGsの活動を全学教職員、学生含めて進めていくが必要だと思っています。石巻専修大学、付属高校、校友会、育友会とも連携できる活動も多くあると思います。現在、実際に司令塔となる組織を立ち上げるところで、今後活用していきたいと思っています。

**尾池学長** ●先日、石巻市と同じ規模の宮城県大崎市の方に「石巻には大学があっというんですね」と声をかけられました。驚いて「何故ですか？」と聞くと、復興やボランティアのセンターとして機能し、国からの補助も受けやすい、いわばシンボルのような役割になっているから、ということでした。宮城県ではほとんどの大学が仙台市にありますが、私たちが思っているよりも石巻専修大学が周辺から認知をされていることを実感しました。そうであれば、石巻の方、在校生、卒業生にも「石巻専修大学があるから自分達も頑張れる」という意識を持って欲しい、そのための大学をつくっていききたいと思います。

総合大学として理工系では資源関連、経営ではマーケティング、まちおこし、人材教育、文化発信を行っています。また人間学部では英語教員養成のための教職課程も創設しています。これらを発信することで、明確な希望とか、自分がやりたいことを伸ばすことをしたい学生が集まり、満足度も大きくなっていく。「石巻に行けばやりた

いことができる」「自分の能力を伸ばしてもらえ」そんな共通認識が高校生、在校生、卒業生に芽生えることを目指しています。

そのためには様々な障がいを抱える方へのケアも重要です。身体の障がいはもちろん、震災の影響による心の障がい、これま

で意識されなかった発達障がいなど、そういったケアを行うことも今後は重要になってくると感じています。

### 校友会念願のサロンが新校舎最上階に誕生

**編集部** ●専修大学創立150年、石巻専修大学創立40年への方針、抱負についてお尋ねしました。ありがとうございました。日高理事長、佐々木学長、尾池学長のお話を受け、校友会はどのように関わり、活動していくのか、小宮会長、お願いいたします。

**小宮会長** ●はい、これからの10年間は専修大学にとって非常に重要な期間になると思います。というのも、少子高齢化や働き方改革など、誰も経験したことのない社会の変化が訪れ、大学教育の在り方、学校経営



建設中の神田10号館(専修大学140年記念館) 2019年10月撮影

にも大きな影響を及ぼすものと実感しています。日高理事長、佐々木・尾池両学長のお話を伺い、将来に向けた発展への取り組みと、そのお気持ちに感銘を受けました。私たち校友会としても、先生方と同様に、未来に向けて、積極的な活動をしていく必要があると考えます。

校友会は3年前の2017年に創立130周年を迎え、専修大学と共に長い歴史を歩んできました。創立以来、「校友会員相互の親睦を図ること」「大学の発展に寄与すること」という2つの目標を掲げ、これまで連綿と受け継いできました。今後もこれについては継承していきながら、校友会員一人ひとりが持つ「母校愛」をいかに満足させるか、いかに「絆」を強く結びつけられるかを中心に考え、活動していきたいと思えます。

そのような意味で最も大切なことは、校友会活動の基本である支部活動をさらに活性化していくことです。活動が盛んであればあるほど、校友にはもちろん、在校生や若い校友にとっても、自分達には「専修大学があり、校友会の仲間がいるのだ」と実感していただくと信じています。

これからも支部と本部、あるいは会員個人々と本部との意思疎通や情報連絡を密にして、効果的な方策を考えて実施していきたいと思えます。

**日高理事長** ●小宮会長、ありがとうございます。実は校友会から、専修大学創立140周年、石巻専修大学創立30周年記念事業への募金を頂きました。総額1億1300万円もの多額の寄付で、これは校友会のメンバーが大学に対し、どのような思いを持っているかの証だと私は受け止めています。寄付は多数いただいておりますが、個人、企業等を含めて校友会が1番バッテリーであり、これは本当にうれしかったですね。感謝しております。資金は生田校舎、神田校舎、石巻専修大学の環境整備において有難く使わせて頂いております。

大学として、改革を進めていますが、東日本大震災で多大な被害を受けた石巻専修

大学は大変な苦勞をしてきました。校友会には物心両面で支えを頂いていますが、実は30年前の創立時にも校友会から多額の寄付を頂きました。その費用でキャンパスに桜の木を約1000本植樹しました。現在は見事な桜の名所になり、地域のみなさんがお花見に訪れ、心を癒す場所になっています。生田の山も桜の名所です。枳形山からキャンパスにかけて見事な桜が咲き誇ります。ところが神田校舎だけが桜に無縁でした。今回、神田キャンパスの入り口には、小宮先生から個人のご寄付で見事なソメイヨシノを寄贈いただきました。これで、どのキャンパスでも桜を見ることができます。

校友会の代表として、また校友のお一人として、小宮会長には心より御礼を申し上げます。小宮先生、ありがとうございます。**小宮会長** ●いえいえ、とんでもありません。

## 総合大学として何を学び、どう成長できるか。入学後の学科選択も可能な仕組みづくりを

——尾池学長

桜については卒業、入学のシーズンに欠かせないシンボルになると思いき、寄贈いたしました。卒業で母校を離れてしまうと、どうしても距離が遠くなりがちですが、新キャンパスの桜を見かけた時、またはどこかまったく違う場所で桜を見た時に、母校を思い出して欲しい、そんな気持ちもありましたね。

佐々木学長のお話にもありましたが、これから神田キャンパスを中心に、学生街が新たにつくられることを実感しています。カルチャータン構想のシンボルとして桜の木が人々の印象に残り、専修大学と桜を結び付けてもらえたら幸いです。桜の木が根をしっかりと張るように、大学と地域の関係が親密になればいいですね。校友会としても、大学を支援すると共に各種の行事に地域とのつながりを一層強めていきたいと考えています。

**日高理事長** ●ありがとうございます。新校舎については、校友会のご寄付をいただき、



尾池守 石巻専修大学長

最上階となる16階の一部に「鳳サロン」がつくられます。校友会、育友会、あるいは学校関係者が会合などを行えるサロンです。大学にこんなところがあるのか、という雰囲気スペースになっていますので、校友のみなさんにぜひご利用いただきたいですね。どのような使用形態、管理形態になる

かは決まり次第ご報告いたします。

### 学部、学科の改革を進め 充実した教育課程をつくる

**編集部** ●ありがとうございました。では最後に専修大学、石巻専修大学、校友会がいかに動くのかについて教えてください。またみなさまの個人的な今年の目標についてもお願いします。

**日高理事長** ●なにを置いても150年に向けて突進をしなければいけないと。飛躍するために法人として打つべき手を打ちたい、また財政的に研究教育をどう支えていくのか。それらをやらないといけないと実感しています。

個人的には専修大学の教員を退職し、残したままの研究をやり逃げようとしています。ここ1年半ばかりは、朝は5時か5時半に起きて原稿を書いているんです。1日も休まずに続けていますが、これが今年、体系書として日の目を見ることができそう

です。刑法の総論の体系書は書きましたが、各論の体系書の刊行を予定しています。研究者になった以上は研究者としてのけじめをつけて去らないといけない。責任を果たそうと努力しています。

佐々木学長 ● 国際コミュニケーション学部という新しい学部が出来上がり、商学部が神田に移転します。また経済学部は、経済学科が現代経済学科と生活環境経済学科に再編され、国際経済学科とあわせて3学科体制になります。140周年に向けて、我々が描いてきたこれらのスキームを確実に運用していくという目標があります。

それに付随した様々な活動がありますが、まず体育会の学生に対するサポートです。UNIVASという大学スポーツ協会主導で、単位を取らないと試合出場を制限するといったルールが検討されています。現場の先生からは、試合に出るため授業に出られないスポーツ系の学生がおり、その対応に苦慮するといった話も聞かれます。そこで体育会学生に対する学習支援制度を始める動きがあります。

また先ほど尾池学長からもお話がありましたが、潜在的に障がいを抱えている学生がいるという実態があります。身体的障がい、精神的障がいの両面がありますが、それらの支援についても今後さらに求められます。これだけ大きな大学で、多数の学生が集まるため、4月から障がい学生支援室を立ち上げ、学校としてしっかりサポートをしていく所存です。

個人的な目標といえますか、学長として、やはり入学志願者が前年度よりも1人でも多く集まることを目指しています。実は夢で見たのですが、入試当日に志願者が多く



集まりすぎ、私が教室で受験番号票を懸命に手でちぎり、机に張り付けていました(笑)。正夢になればいいなと思っています。

尾池学長 ● 私も目標からお話ししますと、やはり入学定員の充足が第一となります。そのため今準備しております経営学部の新学科を令和3年の4月に開学できるように準備を行い、それを目標に掲げています。

以前、人間学部をつくり、理工学部2学科を改組しましたが、つくったことで満足してしまわなかったか? と疑問を抱いて

## 新校舎サロンを校友会として有効活用。 校友への新たな情報発信を目指す

——小宮会長

います。中身をととのえることと、教育カリキュラムと教務に対するアフターケアが少し弱かったのかなという気がします。学科の教務内容を4年間かけてつくっていかねければ、それに続く改革も評価されないし、学科も評価されません。そのため着実に進めていきたいと思っています。

石巻専修大学の桜は創立以来、総計約1000本が植樹されましたが、30年が経過した現在は500本となり、うち350本がソメイヨシノで、10種類以上の桜が咲き誇ります。30年ほどの桜が最も見ごろだそうで、非常に壮観です。その桜の下で学生さんが楽しく遊び、学べるよう充足をはかっていきたいですね。

小宮会長 ● 今年は校友会、そして私の夢でもあった「鳳サロン」が10号館の最上階である16階の見晴らしの良い場所に開設されるということで、すでに夢が叶ったかのような気持ちであります(笑)。校友をはじめ、オール専修の皆さんで使わせていただきますが、このサロンの有効活用が校友会活動の新たな一助となるよう、校友皆さんのご意見を頂きながら、大学、育友会などと連携、相談をし、じっくり考え、活用方法を実践していきたいと思っています。

校友会としては本年が専修大学創立140周年の節目となるため、昨年に引き続き、



小宮多喜次 専修大学校友会会長

大学への物心両面にわたる協賛を全国の校友に呼びかけていきます。

同時に永遠の課題ですが、支部行事出席者の増加による支部活性化をいかに取り組んでいくか、地域の実情を踏まえながら検討していく必要があります。特にこれからは60代、70代の元気な高齢者が増加してきますので、若年、中年層の校友をお誘いすることに合わせて、高齢者の校友も積極的に交流の場へお誘いしたいと考えています。

私も80歳を超えましたので、健康維持が最も大切だと思っており、そのために、今年も中学時代の親友と共に年2回、当日に行先を決める「ぶらり旅」へ出かける予定でおります。専修大学はスポーツでも大いに活躍していますので、今夏の東京五輪では卒業生も含め、ぜひ選手として出場することを期待しています。昨年はラグビーワールドカップで大いに盛り上がりました。専大ラグビー部も昨年からの念願の関東リーグ戦1部で活躍しています。この勢いを駆って、箱根駅伝出場、東都大学野球リーグ1部昇格を果たしてほしい! 学問と合わせ、スポーツで活躍することの効果は大学にとっても、校友会にとっても絶大です。校友会も強力に応援を続けますので、ぜひ実現してもらいたいと思います。

(神田キャンパス理事室にて)